

おにいちゃんはいぼう

上口 咲葵子かみぐち さきこ

「こうきお兄ちゃん、みいつけた。」

わたしは、ひる休みになるとこうがく年の下たばこに行く。お兄ちゃんがグラウンドにでてくるからだ。わたしは小がく一年。一年生になるのがたのしみだった。四、六年のお兄ちゃんとおなじがっこうにいけるからだ。六年のお兄ちゃんはきょうしつからでてこない。でも四年のお兄ちゃんは、サッカーをするためそとに出てくる。

「お兄ちゃん。」

とわたしははしっていくと

「こうき、モテモテ。」

とお兄ちゃんの友だちがわらいながらいう。お兄ちゃんは下をむきながらこまったかおをしている。

「さきちゃん友だちいないの？」

ときいてくる。友だちはクラスにいる。でも、わたしはお兄ちゃんとがっこうでもあそびたいのに「ダメ」といわれるのだ。

なつ休みのすこしまえ、お兄ちゃんは、かんきょうカルタのだいひょうをめざし、こうないよせんかいでたたかっていた。わたしはおうえんしにいった。でもお兄ちゃんは五年生にまけてしまった。その日、かえってから、

「さきちゃん、もうみにこないで。それとがっこうではだきついてこないで。いやなんだ。」

とこわいかおでてきた。わたしはないた。お母さんにもいいつけた。でもお母さんも、お兄ちゃんがただししいといつた。

むねがいたくなつた。そしてまたなみだがでた。

つぎの日からがっこうでお兄ちゃんとあつてもてをふるだけですがまんした。下たばこにもいなくなつた。友だちとうんていであそんだり、ちがうクラスの一年生とも友だちになれた。おなじクラスの友だちのおたんじょうかいにもよばれた。「さいきん、さきちゃんはえらいんだよ。だきついてこないんだよ。だから、おれのほうからワツとおどかして、びっくりさせたんだ。」

とお兄ちゃんがごはんのとときいった。

「さきこちゃん、お兄ちゃんばなれね。」

とお母さんがいった。

「すこしさびしいな。」

とお兄ちゃんがいうから、

「かっただねえ。」

と六年のお兄ちゃんがあった。

「さきちゃんは、おれのあいぼうだからな。」

とお兄ちゃんがわらっていつてくれた。

お兄ちゃんにおこられたことはかなしかつた。でもともだちがふえたことやうんていができるようになったのはうれしい。あいぼうは、こまったときたすけあうなかまといういみだとお兄ちゃんがおしえてくれた。がっこうをたのしくしてくれたさいこうのあいぼうに「ありがとう」をつたえたい。